

## 寛さんと蟹

佃

孝

寛さんのお家は、高いく石垣の上にあります。下には、綺麗な小さな流れがあつて可愛らしい目高が、スイスイ泳いでゐます。大きな蟹、小さな蟹、赤い蟹、いろいろな蟹が居るやうです。學校歸りの子供達が、

「やあ蟹が居るぞ、捕つてやれ！」と騒いでゐるを、寛さんは直ぐに出て来て、

「蟹を捕つてはいけませんよ」と云ひます。

寛さんは、可愛らしい子で、みんな人からも大變可愛がられて居りました。

寛さんは、繪本を見せたり玩具の電車や自動車などで一緒に遊ぶのは大好きでしたが、蟹を捕られる事は、とても嫌がりました。

或る時、寛さんがおねんねしてゐますを、可愛らしい蟹さんがキッチンにお椅をはいて、お行儀よくお坐りしました。

「坊ちゃん今晚は、私は坊ちゃんを、お迎へに参りました」  
と申します。

寛さんは、仲よしの蟹さんについて行きました。

あの小さな石垣の隙間から、スーツミ入れました。入つて見るを、だんく道が廣くなつて、大きなお池がありました。

そして花菖蒲がさてもきれいに咲いてゐます。何とも云へない香りがして來ます。

お池には赤い美しい橋がかけてありました。その橋を渡りますと、きれいな砂のお道を通りました。

大きな御門の前に来ると澤山の蟹さんが美しい着物をきて、寛さんをお迎へしてゐました。お玄關からお座敷へ通りますと、見たこともない立派なお室がありました。

寛さんが、美しいお座布圍の上に座りますと、大きな赤いお顔ではありますが、少しも怖くない蟹のおぢさんが、立派な紋附を着て立派なお袴をはいて、嬉しさうに入つて來ました。そして両手をついて

「今晚は、よくこそお出で下さいました。いつも皆が可愛がつて頂きまして、ありがたうございます。さうぞ御ゆつくりお遊び下さいませ」  
と申しました。

寛さんは黙つておじぎをしました。

大きな蟹さんがあちらへ行きますと、小さな蟹さんが澤山來ました。

男の子は皆お揃ひのお袴をはき、女の子は皆お揃ひの花菖蒲の模様のお振袖を着てゐます。

いろいろ御馳走が並びました。中でもお柏餅は、一等おいしさうでした。

いつの間にか、寛さんはさても、仲よしになりました。

するさ何處からさもなく、美しい音楽が聴え出しました。女の子達はそれに合せて踊り初めました。長い袂がさても美しく、お姉ちゃんよりもすつと上手に見えます。今度は變つた音楽が聴えます。

「聞いたことがあんな」

と思つてゐると、それはいつもレコードで大きく金魚の曲でした。

するさ金魚のやうに美しい、赤と白とでぼかしくなつたお洋服を着て、頭にパールを冠つた

かあいらしい蟹さんが、水を泳ぐやうにして踊つて出ました。

寛さんは面白く遊んでゐましたが、今金魚の踊りで、子供がお母さんに可愛がられてゐるらしい踊を見るに、急にお母さんの所へ歸り度くなりました。寛さんが

「歸りたい」

と申しますに、先程の蟹のおぢさんが、小さな蟹さんに何か持たせて來ました。

見るにそれは可愛らしい先の丸いきらきら光つたお鉢でした。

「これをお土産にお持ち下さいませ。そして又、さうぞうお出で下さいませ」と申しました。

寛さんは、一三日前から、欲しい〜と申つてゐたお鉢でしたから、嬉しくて耐りませんでした。

「ありがとうございました」

とお禮を言つて、お見送りしてゐる澤山の蟹さんに

「ご様なら」

と、もう一度可愛らしいお頭を下げました。いつの間にか、お家の玄関に歸つてゐた寛さんは、思ひつきり大きなお聲で

「お母さん！」

とお呼び致しました。

「寛さん、なにに？」

とおつしやつて、お入りになつたお母さんを、寛さんは不思議さうに、見上げました。お母さんのお手には、夢で見た通りのお鉢が、ニコ〜笑つて居るやうに見えました。(終り)